

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	らいおんハート遊びリレーション児童デイ大和			
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～	2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(児童発達・放課後等デイサービス計) 108人	(回答者数)	(児童発達・放課後等デイサービス計) 41人
○従業者評価実施期間	2025年1月31日		～	2025年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数)	15人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月20日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・活動プログラムでは「個別活動」「集団活動」を組み合わせ、固定化しない様に工夫が施されている。また、発達特性に合わせて構造化された環境やスケジュール、コミュニケーションの為にカード(絵・写真)等の視覚支援を提供している。	活動プログラムでは、法人としての委員会と事業所内での担当が一週間毎に5領域に沿った物を立案しています。また、自己選択で取り組める課題にも視覚提示で行い、子ども自ら選択を行い発信しやすい様に支援しています。	・スタッフ間で実地内容を各自の学びに繋げていける様に、引き続き研修・定例会議を通して共有していく。 ・専門的支援の取り組みの強化を行っていく。
2	・環境や体制の設備が行えている。 ・児童発達支援と放課後等デイサービス、両方のサービスを一つの事業所でやっている為、未就学児から高校生まで幅広い年齢層の子どもたちが利用しています。長期休暇や主日では交流する機会もあり、お兄さんお姉さんが小さい子のお世話をする経験、小さい子がお兄さんお姉さんの行う姿を真似をして活動や身支度を頑張る経験。などを通して、お互いに助け合える関係性を気づいています。	・余裕を持った職員配置をしており、関係機関との連携を密に行っている。 ・年齢など関係なく取り組める活動や室内での過ごし方が出来ている。	・現在の状況を維持していくと共に、関係機関との交流をより深めていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会が少ない。	・児童発達支援では、同系列の高齢デイサービスとは連携を取り合同行事を開催は行っているが近隣の保育園や幼稚園との連携は現在行えていない。 ・放課後等デイサービスでは、地域活動の情報が不足し連携すべき団体が不明確。	・地域のイベント情報の集約。児童館や放課後児童クラブなどと定期的に情報交換を行い合同イベントの可能性を模索する。
2	高学年、中学生への支援。	放課後等デイサービスでは、支援の必要な小学校低学年の新規利用希望者様が多いです。高学年、中学生の利用者の方では継続しての利用を希望されていますが、卒業後などの不安の相談も頂いています。	どのようにしたら高学年、中学生の利用者様の充実した支援に繋がるか？また、安心出来る居場所作りが出来るかを考えていきます。移行支援や関係機関との連携と情報の共有を行っていきます。
3	保護者向けの支援プログラムや交流の場が不足している。	・ババママサロンなどの親の会参加の保護者同士は、交流の必要性を強く感じ意欲もとても高いです。その一方で、子育ての悩みがあっても、家庭の都合や大人数の場が苦手で参加がしづらい保護者の方もいらっしゃいます。 ・保護者会や懇談会での交流の場が少ない。	・保護者会や懇談会の参加がしやすい様、短時間で参加しやすい物を提供していく。 ・保護者の方が、些細な事をいつでも相談しやすい環境を整えていきます。